永遠の真理

ETERNAL TRUTH

2017年 12月

「この日を神と共に」「反逆の愚かさ（1）」「白い衣に覆われ」「山芋のフライ」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強　「反逆の愚かさ（I）」　4
聖書の教え

朝のマナ　「この日を神と共に」　7
This Day with God

現代の真理　「白い衣に覆われ」　39
清めの特別な働き

力を得るための食事　「山芋のフライ」　42

お話コーナー　「安息日遵守（III）」　44
イエスの物語

教会

【正丸教会】

〒368-0071　埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465
FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015　高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261　沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス　www.4angels.jp

メール　support@4angels.jp

発行日　2017 年 11 月 30 日
編集＆発行　SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Printed in Japan

絶えざる祈り

キリストが、人類のために犠牲になられたのは、十字架の上においてだけではなかった。キリストが、「よい働きをしながら……巡回され」たとき、日々の経験は、ご自分の生命の発露であった。こうした生命をささえる道はただ一つしかなかった。イエスは神によりたのみ、神と交わって生きられた。人々が時おり、「いと高き者のもとにある隠れ場……全能者の陰に」立ち寄り、しばらくそこに宿るならば、その結果はとうとい行為となってあらわれるのであるが、まもなく人々の信仰は衰え、神との交わりが妨げられ、一生の働きは挫折する。しかしキリストの一生は、神との絶えざる交わりにささえられた変わることのない信頼の一生であった。天と地に対するキリストの奉仕は、失敗することも、ぐらつくこともなかった。

キリストはひとりの人間として、神のみ座の前に祈りつづけ、ついにはその人間性に天来の能力が通じ、人性と神性とが結合された。彼は、神より生命を受け、生命を人々にお与えになった。(教育 80,81)

イエスは、自分のためではなく、他の人びとのために、生き、考え、そして祈られた。イエスは、毎朝神との交わりに幾時間かを過ごしたあとで、人びとに天の光を与えるために出ていかれた。イエスは、日ごとに聖霊の新しいバプテスマをお受けになった。神は、新しい一日の早くからイエスの目をさまし、彼の心とくちびるに恵みをそそがれた。それは、彼が人びとに分け与えるためであった。……〔イザヤ 50:4 引用〕。

キリストの弟子たちは、彼の祈りとそして神との交わりの習慣とに強い感銘をうけた。イエスからしばらく離れていた彼らは、ある日、イエスが熱心に祈っておられる姿を見つけた。イエスは、彼らの帰って来たことには、気づかれないかのように、声をあげて、祈っておられた。弟子たちは、深い感銘を受けた。イエスが祈りを終えられると、彼らは、「主よ、……わたしたちにも祈ることを教えてください」と叫んだ。(キリストの実物教訓 114,115)

弟子たちは、誠実に語り祈る方法を知っている人たちであり、「イスラエルの栄光」の力をつかむことができる人たちであった。……キリストはご自身を彼らに現された。そして彼らはキリストから導きを求めた。真理への理解と、反対によく耐える能力とは、神のみこころへの一致と比例していた。神の知恵であり力であられるイエス・キリストが、あらゆる話の主題であった。……彼らがよみがえられた救い主、キリストの完全さを宣べ伝えると、彼らの言葉が人々の心を動かし、人々を福音へと導いた。(患難から栄光へ下巻 302)

絶えざる祈りとは魂がつねに神と一致していることであって、神のいのちがわたしたちのいのちに流れ込み、わたしたちの生活から純潔と聖潔とが神に帰ることである。(キリストへの道 136)

聖書の教え–現代の真理–

第２課　反逆の愚かさ（Ⅰ）

悪の起源

罪は、人類の予測不能な特質です。なぜこの世にはこれほどの言い尽くせない苦しみ、痛み、また恐ろしい災害があるのでしょうか。悪とは何でしょうか。どのように、また、いつ生じたのでしょうか。犯罪と暴力のおぞましい記録がわたしたちの感覚につきつけられます。それでいながら、社会学に対する答えは、偉大な人々の思いをかいくぐっているかのようです。

このいにしえからの問題に対する解決策があります。そしてわたしたちはそれを見出すためには、あらゆる科学の純粋な源、すなわち聖書、神のみ言葉から調べる必要があります。

悪はつねに存在していたのか？

神は完全であられ、このお方は万物を完全にお造りになりました。聖書の中に、わたしたちは悪が存在しなかった時のことを読みます。全能の神が、あらゆる知的存在者の礼拝と尊敬の唯一の対象でした。完全な平和と調和が宇宙を支配し、幸せが行き渡っていました。「かの時には明けの星は相共に歌い、神の子たちはみな喜び呼ばわった」（ヨブ 38:7）。

すべての被造物の中で、天使たちがもっとも知的であり、大変な麗しさと強さを持っていました。

「主の使たちよ、そのみ言葉の声を聞いて、これを行う勇士たちよ、主をほめまつれ」（詩篇 103:20）。彼らは神の僕であり、いつでもこのお方のご命令を実行する用意ができていました。

一人の天使が、知恵と美しさにおいて他のすべての天使にまさっていた。「ツロの王」という象徴的な名前の下、エゼキエルは彼について次のように記しています。「人の子よ、ツロの王のために悲しみの歌をのべて、これに言え。主なる神はこう言われる、あなたは知恵に満ち、美のきわみである完全な印である。あなたは神の園エデンにあって、もろもろの宝石が、あなたをおおっていた。すなわち赤めのう、黄玉、青玉、貴かんらん石、緑柱石、縞めのう、サファイヤ、ざくろ石、エメラルド。そしてあなたの象眼も彫刻も金でなされた。これらはあなたの造られた日に、あなたのために備えられた。わたしはあなたを油そそがれた守護のケルブと一緒に置いた。あなたは神の聖なる山にいて、火の石の間を歩いた。

あなたは造られた日から、あなたの中に悪が見いだされた日まではそのおこないが完全であった」（エゼキエル 28:12-15）。

ルシファーは誇りと偽りの精神を培い、それが満ちて、彼の性質を罪と欺瞞の性質に変えてしまいました。彼らの悪の規則は、悪魔またはサタンという彼の別の肩書の下で認識されています。

このあらゆる被造物の中で最も美しく賢かった者は、かつてルシファーという名、すなわち明けの明星（イザヤ 14:12）という名を帯びていました。彼の職務が、「油そそがれた守護のケルブ」であったことに注目してください。彼は偉大な創造主のみ前に立っていました。そして永遠の御神をとりまく栄光の光線が彼の上にとどまっていました。

どこに悪の起源があったのか？

キリストに次いで、ルシファーは神から最も尊ばれていました。人類歴史で非常に多く繰り返されてきたように、彼の堕落の原因となったのは、自分の大いなる美しさと力に対する誇りでした。「あなたは造られた日から、あなたの中に悪が見いだされた日まではそのおこないが完全であった。あなたの商売が盛んになると、あなたの中に暴虐が満ちて、あなたは罪を犯した。それゆえ、わたしはあなたを神の山から汚れたものとして投げ出し、守護のケルブはあなたを石の間から追い出した。あなたは自分の美しさのために心高ぶり、その輝きのために自分の知恵を汚したゆえに、わたしはあなたを地に投げうち、王たちの前に置いて見せ物とした」（エゼキエル 28:15-17）。

罪は最初、天における最高の天使がいだいたのでした。自分の美しさのゆえに、ルシファーは誇りに満ち、神と等しくなろうと熱望したのでした。

「あなたはさきに心のうちに言った、『わたしは天にのぼり、わたしの王座を高く神の星の上におき、北の果なる集会の山に座し、雲のいただきにのぼり、いと高き者のようになろう』。」（イザヤ 14:13, 14）。

彼のすべての栄光は神からのものであったにもかかわらず、ルシファーはそれを自分自身に付随するものと考えるようになりました。自分の現状の地位に満足せず、彼は創造主に与えられるべき誉れをあえてむさぼるようになりました。すべての被造物の愛情において神を最高とすることを求める代わりに、彼は彼らの奉仕と忠誠を自分自身に確保しようと企て、こうして彼らを神とその律法に対する反逆へ仕向けました。ルシファーの誇りがあらゆる悪の源です。「高ぶりは滅びにさきだち、誇る心は倒れにさきだつ」（箴言 16:18）。

「……そうであると、高慢になって、悪魔と同じ審判を受けるかも知れない」（テモテ第一 3:6）。

「あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であって、その父の

欲望どおりを行おうと思っている。彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、いつも自分の本音をはいているのである。彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ」(ヨハネ 8:44)。

天に罪は存在し得るか?

この天使の反逆は両方、すなわち欺瞞的であり、天の自然の諸々の法則に反していました。ルシファー、あるいはサタンはそのときに彼に従おうと決心した三分の一の天使を欺くことに成功しました。

「その尾は天の星の三分の一を掃き寄せ、それらを地に投げ落した……」(黙示録 12:4)。

二つの反対する原則、すなわち義と悪は共に存在することはできません。こうして、サタンの反逆は天における霊的な戦いという結果になりました。天使たちは戦闘に入りました。ミカエル、天使長、すなわちキリストは忠実な天使たちを指揮し、サタンとその軍勢に対して勝利されました。

「さて、天では戦いが起った。ミカエルとその御使たちとが、龍と戦ったのである。龍もその使たちも応戦したが、勝てなかった。そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された」(黙示録 12:7-9)。

「黎明の子、明けの明星よ、あなたは天から落ちてしまった」(イザヤ 14:12)。

「彼らに言われた、『わたしはサタンが電光のように天から落ちるのを見た』。」(ルカ 10:18)。

この日を神と共に

This Day with God

12 月

12月1日

神に対して不従順になることを恐れる

「わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそう従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。」（ピリピ 2:12）

ここにおいてはどんな不注意も許されていないし、怠惰も無関心も存在しない。そうではなく、わたしたちは恐れおののいて自分たちの救いの達成に努めるべきである。なぜであるか見てみよう:「わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、……恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい」（ピリピ 2:12）。そうであるなら、わたしは常に恐れおののいていなければならないのであろうか、とあなたは言う。ある意味ではそうであるが、別の意味においてはそうではない。

あなたの前には神に対する畏れがある。また神の勧告から離れることがありはしないかとおののくことであろう。このおののきは存在する。あなたは恐れおののいて常に自分の救いの達成に努めるのである。ここで止まってしまうのであろうか。否、どのように神の力がもたらされるかに耳を傾けてみよう：「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである」（13 節）。ここに人の働きがあり、またここに神の働きがある。両者は協力関係にある。人は神の力の助けなしにこの働きを達成することはできない。

神は人をその人自身の生まれつきの感情と欠陥を持ったまま連れて行って、神のみ顔の光の真正面に置くようなことはなさらない。否、人は自分の役割を果たさなければならないのであり、一方で人が恐れおののいて自分の救いの達成に努めているとき、その人のうちに働きかけ、神のよしとされるところに従って、その願いを起こさせかつ実現に至らせてくださるのは神である。これらの二つの団結した力によって、人は勝利者となり、ついに命の冠を受ける。彼は幸福な天と自分の前にある永遠の重い栄光を考えて、それを失うことがないように、約束が残されているのにそれに欠けるものとなることのないようにと恐れる。彼はそれを失う余裕はない。彼はその幸福な天を望み、それを手に入れるために彼の全精力を注ぐ。彼は最大限にまで、自分の能力に重い要求を課す。彼はこの働きにおいて成功する勝利者となることができるように、また永遠の命の尊い賜物を得ることができるようにすべての霊的神経と筋肉を限界まで働かせるのである。……

わたしたちに熱烈な願望、すなわち、見るものにはよらず、信仰によってわたしたちにとっては生きた現実である何らかの目標があることを世が目撃するとき、それが詳しく調べようという動機となって、彼らは確かに何か持つだけの価値のあるものがあることを認めるようになる。なぜなら彼らはこの信仰がわたしたちの生活と品性において、すばらしい変化をもたらしたことを見るからである。（原稿 13, 1888 年 12 月 1 日、アイオワ、デモインにおける説教）

12月2日

わたしたちの必要に適合する賜物

「見よ、わたしはユダの部族に属するホルの子なるウリの子ベザレルを名ざして召し、これに神の霊を満たして、知恵と悟りと知識と諸種の工作に長ぜしめ」（出エジプト 31:2, 3）

神は働きがなされなければならない所に取りかかるご自分の選ばれた人、その人によってまたその人を通してこのお方が働くことができる人をいつも持っておられる。……すべての人に主はタラント―どこかの必要に適合する賜物を任せられた。……

主はご自分の働きに完全につながるすべての者たちに理解力を与えられる。わたしたちは人間の知恵に頼るままにされないのである。主のうちに知恵があり、このお方に勧告を求めることはわたしたちの特権である。……

わたしたちすべての者は神の家族の一員であり、すべての者は多少なりとも神から与えられたタラントを任せられており、わたしたちはその用途の責任を問われるのである。わたしたちのタラントは大小にかかわらず、それを神の働きに用いるべきであり、わたしたちは他の者たちの彼らに任せられた賜物を使う権利を認識するべきである。わたしたちは最も小さい肉体的、知的または霊的資本をも決して軽視してはならない。ある者たちはほんのわずかな金銭をもって取引をし、神の祝福と倦むことのない勤勉によって、これらのささいなものは成功した投資を生み出すことができ、彼らに委ねられた資本金に比例した利益を作ることができる。だれも自分の場所を占め、どんなに小さく見えてもだれかがしなければならない働きをしている謙遜な働き人を軽視するべきではない。

ああ、大いなる特権を持っていた者が限られた領域にとどまろうとすること、また励ましによって大いに有用な場所を占めるまでに発達したであろう人々を見るとき、わたしの心は深く悲しむ。主は大きな器も小さな器も両方用いることがおできになる。生活が活動と真剣さに満たされている多くの者たちは、他の者から勧告と励まし、承認の言葉を必要としている。神は互いに助け励まし合いながら、ご自分の子供たちが向上するのを喜んでご覧になる。

タラントを多かれ少なかれ任せられたすべての者たちは、一致して融和すべきである。わたしたちは、制限され妨害されてきた者たちを助けることができるために、救い主の精神をさらに必要としている。わたしたちが彼らの向上しようとする努力においてどれほど助けられるかは、審判の時に明らかにされるまで知られることはない。わたしたちはさまざまな賜物があることを覚えて、すべての者たちに語るために励ましの言葉を持つべきである。（手紙 260, 1903 年 12 月 2 日、ワシントンD．Cに設立予定の療養所に関係するように招かれた、ジョージ・A・ヘア医師へ）

12月3日

一瞬一瞬への感謝

「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。」（ヨハネ 14:18）

わたしは夜の間よく眠れなかったが、わたしの平安は川の流れのようであった。イエスの愛がわたしの心の中で増し加わり、わたしはこのお方を本当に愛しており、わたしの心はありがたい感謝であふれ出る。神の真理の尊さはわたしの心に明白さと勢いとをもって示されているので、わたしが慰めるために手を伸ばすことのできる人々すべてにそれを表し、わたし自身が慰められた慰めをもって彼らを励ましたいと望むのである。わたしは精神の憂鬱さを少しも感じない。快い見解と発想が、尊い金の見解のようにわたしに示され、わたしの心は明々と輝き、おのずと表れずにはいられないような魂の情熱を感じる。

聖書の言葉を読んでいるとき、光がすべての文字に照らされているように思われた。文章が新鮮で新しく重要に思われ、わたしの心はその全体と完全な調和のうちにあった。わたしは夜に目を覚まして眠りにつけないときでさえ毎瞬感謝している。

わたしはこのお方のみ言葉を読むとき、それが生活と品性において他の者たちに表されるようにと心に真理を植え付けるために聖霊が臨在されることを毎日の経験において知っている。神の霊はご自身がそこに置かれた神聖なページから真理を取り出し、魂の上に印象づけるのである。他の者たちに分け与えるために、何という聖なる喜び、何という望みと慰めがわたしたちのものとなることであろうか。

わたしは〔オーストラリア、N．S．W．のバララトにおける〕午後の集会に出席し、そこにはわたしが期待していたよりも多くの人々が出席していた。わたしはヨハネ 14:5-24 から話した。主はわたしにキリストがご自身を知りご自分の戒めを守るすべての者に与えられた尊い確証を、人々の前に提示するために話す言葉を与えられた。

イエスはご自分に対する彼らの愛の証拠を求められる。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」（ヨハネ 14:15）。このお方の戒めを守ることがわたしたちにとって可能でなかったら、なぜこのお方はこのような言葉をわたしたちに語られるのであろうか。次の聖句がわたしたちに知識の宝物を開いている。「〔わたしはあなた方のところからはいなくなるが〕わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう」（16 節）。……

この約束は確かなものではないだろうか。神のひとり子の唇から出る言葉で何か他に、それをさらに決定的で明確なものとすることができる言葉があるであろうか。（原稿 2, 1892 年 12 月 3 日、日記）

12月4日

貪欲の治療

「ただし、あなたがたは、ゆるぐことがなく、しっかりと信仰にふみとどまり、すでに聞いている福音の望みから移り行くことのないようにすべきである。」（コロサイ 1:23）

神の恵みの感化だけが、自己を否定し、寛大な立場を取るようにと人々を導く。神のみわざはどのような場合においても妨害されてはならない。「悔い改めて本心に立ち返りなさい」というメッセージは世界の全体に伝えられなければならない。神は植物が繁茂するためにわたしたちの上に惜しみなく日光と雨の宝を与えられ、このお方はすべての信者が真理のみ事業の進展のために心からの寛大さを表すことを求められる。救いにいたらせる神の力である福音が世界中に宣布されることができるように、わたしたちはかつて働いたことのないほど今働く必要がある。そして真理に改心した者たちが、彼らの自己犠牲によって、主の家に食物があるように宝庫を満たし続ける手段となるべきである。

主の霊が大切にされると、それは貪欲の確かな治療となる。それについて語り、それに生きなさい。福音の武具で身を固めなさい。わたしたちは祈りと信仰の精神をもっと必要としている。コロサイ 1 章はわたしたちの前にその高い責任を掲げている。

パウロは「あなたがたは……愛するエパフラスから学んだのであった。……あなたがたが御霊によっていだいている愛を、わたしたちに知らせてくれたのである。そういうわけで、これらの事を耳にして以来、わたしたちも絶えずあなたがたのために祈り求めているのは、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力とをもって、神の御旨を深く知り、主のみこころにかなった生活をして真に主を喜ばせ、あらゆる良いわざを行って実を結び、神を知る知識をいよいよ増し加えるに至ることである」と言っている（コロサイ 1:7-10）。

わたしたちは霊的にさらに高くさらにもっと高く上がらなければならない。わたしたちはすべてのつぶやきを止め、感謝をささげることを培わなければならない。わたしたちは滅び行く魂の救いのために働かなければならない。

わたしたちは最高の力をつかみ、そしてわたしたちの耳をつぶやきとあら捜しに対して閉じなければならない。一つも不満の思いがうちに残ることがないようにしなさい。魂が彼らの罪の内にあって滅んでいる。神の栄光のために働きなさい。（手紙 372，1906 年 12 月 4 日 ｵｰｽﾄﾗﾘｱで働いている O.A. ｵﾙｾﾝ長老と Dr.D.H. ｸﾚｽへ）

12月5日

暗闇から光が輝き出る

「見よ、わたしはあなたを練った。しかし銀のようにではなくて、苦しみの炉をもってあなたを試みた。」（イザヤ 48:10）

わたしがあなたに与える〔ヨーロッパで働いている J.N. アンドリューズ長老に彼の娘、メアリーが亡くなった直後にかかれた手紙〕すべての慰めの言葉はあまり役に立たないだろう。あなたはあなたの力とあなたの慰めの源を知っている。あなたはイエスと彼の愛を知らぬ人ではない。多くの人々にとって人生は痛みと労苦と落胆の長い戦いであるが、あなたもその中の一人である。引き延ばされた望みは心を悲しませたが、この世はわたしたちの試練と苦難とわたしたちの悲しみの舞台である。わたしたちは神からの試練を耐えるためにここにいるのである。炉の火はわたしたちの不純物が燃えつくされ、わたしたちが苦悩の炉において清められた金のように出てくるまで燃えるのである。わたしの愛する兄弟、あなたはその目の光をあなたから取り去った神の神秘的な摂理を沈思するかもしれない。

もしこの大きな損失がなかったなら、あなたは幸福な人であっただろうと感じる。しかしここにおいてあなたの子の死それ自体があなたにとっても、あなただけではなくスイスにいる多くの者にとっても魂の救いのためになるかもしれない。あなたにとって時には不可解に思えるこの暗闇から光が輝き出るであろう。「主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな」（ヨブ 1:21）。これがあなたの心の言葉となるようにしなさい。憐れみの雲はあなたの上にとどまっており、最も暗い闇のときでさえもあなたの頭上を覆うのである。わたしたちに対する神の恩恵は、地を潤し活気づけるために、乾ききった地を覆う雲から降ってくる雨の滴りのように数え切れないものである。神の憐れみはあなたの上にある。……

わたしの愛する兄弟よ、主はあなたを愛しておられる。このお方はあなたを愛しておられる。「山は移り、丘は動いても、わがいつくしみはあなたから移ることなく、平安を与えるわが契約は動くことがない」（イザヤ 54:10）。「神は、神を愛する者たち……と共に働いて、万事を益となるようにして下さる」（ローマ 8:28）。もしあなたの目が開かれることができるなら、あなたは天父が愛のうちにあなたの上にかがんでおられるのを見、もしあなたがこのお方の声を聞くことができるのなら、苦しみと苦悩にうちひしがれているあなたに憐れみ深い声が聞こえるのである。このお方の力のうちに堅く立ちなさい。そこには疲れたあなたのために休みがある。（手紙 71, 1878 年 12 月 5 日 J.N. アンドリューズへ）

12月6日

受けたように与える

「わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み……なさいと、万軍の主は言われる。」（マラキ 3:10）

終わりは速やかに近づいているが、わたしたちの教会にいる多くの者は眠っている。すべての者が主に仕えることを彼らの最も大切な働きとなるようにさせなさい。主はご自分の民のある者には多く、ある者には他の者たちより少なく財産というタラントを委ねられた。多くの者にとって富の所有が罠となってきた。世の流行への追求の願望によって、彼らは真理への熱意を失い、彼らは永遠の命を失う危険の中にいるのである。神が彼らを繁栄させたのに比例して、人は自分の管理下に任せられた財産をこのお方に返すべきである。……

すべての者が彼らの創造主との取引関係を注意深く吟味するようにさせなさい。彼らの造り主と不誠実に取引することをためらわない者たちは、確かに彼らの同胞と不誠実に取引することもためらわないであろう。

わたしは神が什一と捧げ物を差し控えることを盗みと見なされるということを、わたしたちの民すべての者に印象づけたいと望む。わたしたちは単なる神の管理人である。わたしたちは自分の手に渡されたお金を所有してはいないのである。その支出においてわたしたちはイエス・キリストと共労者とならなければならない。

神の働きの前進に大きな興味を感じるべきである。この働きはすでに大きな規模にまで成長したが、なおもより急速に前進するべきである。わたしたちはもっと多くの働き人を必要としており、新しい領域にメッセージを進展させるために施設を備えるためには自己否定の精神がすべての者になければならない。多くの所において働きが大いに遅れているのは資金の欠乏によるのである。神の譴責はこのお方を助けようとしない者たちの上にとどまるのである。……

世を警告する大いなる働きにおいて、心の中に真理を持って、その真理によって清められている者たちは自分に割り当てられた役割を果たすであろう。彼らは什一と捧げ物の支払いにおいて忠実になるのである。すべての教会員は、ひとつひとつの資金の無駄遣いについて自己否定をするという契約関係によって神につながれている。すでに確立されている働きと、新しい領域に入っている働きを強めることにおいて、家庭生活における経済の必要がわたしたちの役割を果たすことを不可能にすることがないようにしなさい。（原稿 103，1906 年 12 月 6 日「贈り物と捧げ物」）

12月7日

永遠の損失

「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」（コリント第一 2:9）

すべての罪、すべての不義なる行い、神の律法のすべての違反は、それに苦しむ者よりもそれを犯した者に千倍もの力を及ぼす。神が人を高めるために与えられた素晴らしい機能の一つが悪用されたり誤用されたりするたびに、その機能はその活力の一部を永遠に失い、悪用される前の状態になることは決してないのである。現世の生涯においてわたしたちの道徳的性質が悪用されると、それはそのときだけでなく永遠に感じられるのである。神が罪人を許すことがおできになるとしても、この生涯において受けた故意の損失を償うことはできない。

来るべき、将来の生涯に持って行けたはずの半分の力が奪われるとは考えるだけで、恐ろしいことである。地上で天国にふさわしい者となる間に、失われた恩恵期間の日々は、二度と取り返すことのできない損失である。この生涯における非行と道徳的力の悪用によって、楽しむ能力は来世において低下する。来世においてわたしたちがどんなに高く到達しても、猶予期間に生存している間に神から与えられた特権と絶好の好機をわたしたちの能力を向上させるために最大限に活用したなら、さらに高くもっと高く上ることができるであろう。……

わたしたちすべては２人の大いなる司令官のどちらかの下にいる。人と世界を造られた創造主が、すべての中で最も偉大なお方である。すべての者はこのお方に彼らの愛情全体の献身、全身の忠誠を払う義務を負っている。もし思いがこのお方の支配の下におかれるなら、またもし神が思いの力の形成と発達をなさるなら、あらゆる知恵とあらゆる力の源から新しい道徳力が日毎に受けられるであろう。道徳的祝福と神性の美しさは、天に心が向けられているすべての者たちの努力の報いである。わたしたちは世俗の短い視覚のかなたにある、最も偉大な思いと無限の力につながっていない最も博学な哲学者の想像力に勝る啓示―天の美しさ―をつかむであろう。……

正義、誉、愛、真理は神のみ座の属性である。それらは報復の火によって清められた地上に確立されるべきこのお方の統治の原則である。これらは現在また永遠にわたって追い求められ、大切にされるべき宝石である。これらのことを考えて、……あなたの品性を世俗的標準に従ってではなく、永遠のために築きなさい。（手紙 41, 1877 年 12 月 7 日、19 歳の甥である F.E.ﾍﾞﾙﾃﾞﾝへ）

12月8日

強情―あらゆる向上に対する障害物

「わたしはあなたが、かたくなで、その首は鉄の筋、その額は青銅であることを知るゆえに」（イザヤ 48:4）

強情は品性の悪い特質であり、もし克服されないならば多くの害を及ぼすものである。強情な者は自分が抱いている感情を譲ることをしない。思いの狭さが強情の原因である。知的能力はあるが、強情がその品性のうちに発達するがままにしてきた者たちがいる。彼らは正しいことを自分たちがそれを考え出していないという理由で、それを信じることを拒むのである。

強情はすべての向上における障害物である。強情なものは自分が理解することのできない見解について、容易に説得されない。彼は信仰によって歩むという意味を知らない。彼は自分がすでにこの考え方を採用したからといって、正しかろうとなかろうと、自分の計画と意見に固執する。彼は自分が間違っているという十分な理由を見るかもしれないし、また彼の兄弟たちが働きを成功させるために彼の意見と方法に反対の声を上げるかもしれないが、彼は確信にあらがってほとんど動かし得ない障害物を心にいだいている。……彼は、彼と同様に十分知的で賢い人たちの経験と判断とによっては是認されない考えを提案する。彼は将来を見通すことができるかのように主張し、完全に十分であるかのように自分の意見を支持する。自己があまりにも長い間支配的な要素となってきたために、その不幸な人は、自分が考えているように自分自身の思いを持つことが徳であるとみなす。もし自分の方法が行われないと、彼は大小関わらずどんなことでも、すべての機会において異議を唱えるのである。彼はそれが真実であれ、またまったく間違ったものであれ自分の言葉に固執する。この習慣はたびたび繰り返され、大きくなってどうしても抜けない癖となり、品性になるのである。……

批判を自分たちの科学とし、ほとんどすべてのことにおいて反対の立場に立つ2，3人の人々によって、まさに最上の仕事が低レベルにまで引き下げられることもある。彼らは思いがけないほど多くの収穫が実る疑いの種を多く蒔くことになる。……

主はご自分の働きを妨害し傷つけているこの精神が存在することを快く思われない。このお方はご自分の働きを実行し、ご自身の聖霊によって支配されている人々を召しておられる。（原稿159，1898年12月8日、「だれの悪口も言わない」）

12月9日

神は偉大さをどのように見られるか

「この大いなるバビロンは、わたしの大いなる力をもって建てた王城であって、わが威光を輝かすものではないか。」（ダニエル 4:30）

国家と個人の力は彼らを無敵と思わせる機会や設備によるものではない。それは彼らが誇っている偉大さによるものではない。彼らを偉大で強いものとすることができるのは、神の力とご目的のみである。彼らはこのお方のご目的に対する彼らの態度によって彼ら自身の運命を自ら決定するのである。

人類の歴史は人の偉業、戦いにおける人の勝利、世俗的な偉大さに登りつめた人の成功を物語っている。神の歴史は、人間を天が見るがままに描写している。神の記録の中で、人のすべての偉業は、神のご要求に対する従順にあることが見られる。彼の不従順は彼が必ず受ける刑罰に値するものとして、忠実に記録されている。永遠の光の中で、神は人を従順か不従順かという重大な問題にしたがって扱われるのだということが分かるようになる。

人々が活動の舞台に現れる数百年も前に、聖霊の口述筆記によって預言の筆はその歴史の跡をたどった。……

過去の時代に聞かれた神の声は、幾世紀にもわたって活動の舞台に現れては過ぎ去った世代を通じて、鳴り響いてきた。神が語られるのに、このお方の声に敬意が払われないのであろうか。国々が、次から次へとあらかじめ述べられた時と場所を占め、自分自身もその意味を知らなかった真理を気づかずに証言してきた、この全歴史を詳細にまで取り決めてきた権力は何であったであろうか。……

神はすべての者たちに、ご自分の大いなるご計画のうちに場所を割り当てられた。真理または偽りによって、愚かさまたは知恵によって、特定の結果をもたらすことによって各自は目的を果たしている。……

世の目には、神に仕える者たちが弱く見えるかもしれない。彼らは見たところ大波の下に沈んで行っているかも知れない。しかし次の大波とともに彼らが彼らの天へもっと近く上がっていくのが見える。「わたしは、彼らに永遠の命を与える。……また、彼らをわたしの手から奪い去る者はない」とわたしたちの主は仰せになる（ヨハネ 10:28）。王は倒され、国々は除かれるが、神のご目的に信仰を通してつながるものたちは永遠に残るであろう。「賢い者は、大空の輝きのように輝き、また多くの人を義に導く者は、星のようになって永遠にいたるでしょう」（ダニエル 12:3）。（原稿 36, 1896 年 12 月 9 日、「成功の条件である従順」）

12月10日

キリストの平安で満たされた心

「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。」（ヨハネ 17:21）

滅び行く魂が真理の光を持つことができるように、彼らを探し、救うためにキリストがこの世に来られたように、このお方はご自分を彼らの救い主として受け入れるすべての者たちに同じ働きをゆだねられた。「また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします」（ヨハネ 17:19）。

わたしたちが真理に根ざし真理を基とすることは何と重要なことであろう。偽りは真理から出たものではない。主イエスはもしわたしたちが信仰によってこのお方を受け入れわたしたちの模範としてこのお方を信じるなら、このお方はわたしたちに「神の子となる力」を与えられることを約束された。イエス・キリストの福音は純潔な生涯に表されたすべての真理の重要な原則を含んでいる。愛と真の義においてこれらの原則は世に宣べ伝えられるべきである。わたしたちのすべての相互の取引において、わたしたちは神の律法の戒めに従うべきである。「また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします。わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします」（19, 20 節）。

わたしたちはこれらの言葉から、どれほど多くのことがイエス・キリストの福音を信じると公言しているすべての者たちの品性にかかっているかを見ることができる。キリストに従う者たちの生活によって世は救い主を判断するのである。もしもだれかが、言葉あるいは行為において真理の生きた原則から離れるなら、彼は自分の救い主に屈辱を与え、キリストをさらしものにするのである。

すべての魂はキリストを信じよう。そして、キリストが約束された力を受けよう。それは、その人が神の子となるためであり、良心的に真理を保持し、その原則を自分の言葉や精神、またそのすべてのわざに織り込むためである。こうしてクリスチャンは精練し、清める感化力となり、偽りの宗教と不信に反して働くことができるのである。彼らの存在は天の原則の大いなる感化をもたらし、キリストを通して彼らを福音の誉とするのである。彼らは聖化させる天の恵みを伝える力を増し加え、真理に対する彼らの敬神が増し加わることによって、絶えず感化力を増し加えていくのである。彼らの心はキリストの平安で満たされている。（手紙 327, 1905 五年 12 月 10 日、W．C．ホワイトへ）

12月11日

あなたの喜びが満ち溢れるため

「その神、主の手が彼の上にあったので、その求めることを王はことごとく許した。」（エズラ 7:6）

キリストはすべての者たちが天の恵みを豊かに持つことを望まれる。このお方はご自分の喜びがあなたのうちにあることを望まれ、あなたの喜びが満ち溢れることを望まれる。すべての魂は集会にいる時とまったく同様に集会にいない時も、自分自身を厳格で忠実な働きのうちに律すべきである。あなたは天のみ使いたちに常に見られており、すべての忠実な弟子は、もしそうしようとするならば王の前におけるエズラのようになることができるであろう。神の手は、神を求めるすべての者の上にやさしく下り、その威力と怒りとは神を捨てる者、世の助けと友好に頼る者、エクロンの神に問うために行き、生ける神の勧告に聞き従わない者の上に下る。

神の子供たちはだれが自分たちの助け主であるかを知る。彼らはだれに絶対的に信頼を置くことができるかを知り、キリストの助けによって、憶測によらず、聖なる信頼を持つことができるのである。このお方の僕は恐れることなく、イエスを仰ぎ見つつ、このお方のご要求への従順のうちに前進し、世が所有しているものでも世が支持しているものでも、何であっても世に結びつけるものはすべて後にしてこのお方にのみ安全に信頼することができる。彼らの成功は神から来るのであり、彼らには悪人の富と感化がないので、失敗することがない。もし彼らが失敗することがあれば、それは彼らが主のご要求に従わず、聖霊が彼らとともにいないからである。……

わたしたちの唯一の安全は主イエス・キリストに結合していることにある。わたしたちは世人の友好を失ってもやむをえない。自分たちの清められていない目的を実行するために世人に自らを結びつける者たちは、恐るべき過ちを犯している。なぜなら彼らは神の恩恵と祝福を失うからである。わたしは主ご自身が、世とご自分がこの地上に確立されたものとの間に、分離の壁を置かれたことをわたしたちの民の注意に強く訴えなければならない。キリストが神の民をご自身の働きをするようにと彼らを世から呼び出し、彼らを聖化し精錬されたのであるから、彼らはこのお方に仕えるべきである。……俗悪なものと聖なるものとの調和を保つということはありえない。キリストとベリアルの間に調和が存在することはない。「主は神を敬う人をご自分のために聖別された」（詩篇 4:3）。そしてこの主への献身、世からの分離は旧約と新約聖書の両者によって明白に宣言され絶対的に命じられている。（手紙 329, 1905 年 12 月 11 日、ロマ・リンダサニタリウムの経営者J．A．バーデンへ）

12月12日

主の方針

「ただ教とあかしとに求めよ。もし彼らがこの言葉によって語らないならば、それは彼らのうちに光がないからである。」（イザヤ 8:20 英語訳）

主のみ言葉の中に説明されている主の方針が、生活におけるわたしたちの基準とならなければならない。全身が始めから終わりまでご存知であるお方の支配下に置かれるべきである。聖書、聖書のみがわたしたちの指針となるべきである。わたしたちはわたしたちの好みだけにではなく、天の命を与える原則に従い服従しなければならない。知恵と神の力は敏感な心に働きかけて、思いと品性を天の律法と天の基準との調和に至らせる。世に真理と義の偉大な真実を伝えるために、個人的にわたしたちは聖霊の導きを得なければならない。……

わたしたちは民に警告を発するように命じられている。いま見張り人は失敗してはならない。彼らは、神のひとり子であられるのに、人類をサタンの手引きから導き出すためにわたしたちの世に来られたお方に対する自分たちの義務についてはっきりとした認識を持つことができるように祈り、見張らなければならない。

わたしたちは魂を教え導き、それによって彼らがキリストの模範を仰ぎ見るように、またキリストに対する自分たちの義務を悟ることができるようにすべきである。彼らは、創造と贖いによってこのお方のものなのである。キリストはこの世に生まれ出たすべての男女と子供たちの所有者であられる。贖いの値を払うことによってそのようになられた。もし堕落した人類が心からの服従によって神の息子娘となることに同意するならば、彼らはキリストと一つとなるのである。救い主は罪の報酬を払われるためにご自分の命を与えることによって、彼らを買われたのである。……真に改心した者たちはサタンによって目をくらませられた魂のために働くことによって、キリストの救いの恵みを表すであろう。神の働き人たちは自分たちの生活において真理と義の力を示すべきである。世はまもなく、その破られた律法をめぐって、偉大な律法の賦与者に対面するのである。許しを望むことができる者たちは、違反から従順へと移った者たちだけである。

「神の戒めとイエスの信仰」と記された旗を掲げなければならない。これは大きな問題点である。それを見えないところにおくことがないようにしよう。わたしたちは天の律法の要求を見、従うように教会員と、公に表明していない者たちとを起こすために努めなければならない。わたしたちはこの律法を大いなるものとし、かつ光栄あるものとすべきである。わたしたちは霊的昏睡状態に陥っている者たちを起こすべきである。（手紙 138，1910 年 12 月 12 日、スタール長老がチャプレンとしてまた福音伝道の奉仕に携わっていたメルローズ療養所のスタール長老と夫人へ）

12月13日

謙遜の偉大さ

「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを救うであろう。」（ルカ 9:24）

キリストはご自分の弟子たちにだれがご自分の弟子になるべきかということに関して、最も重要な教訓を与えられた。「わたしが今建てようと思っている王国においては、最高位への争いがあってはならない。あなたがたはみな兄弟である。そこにおいてわたしのすべての僕たちは平等である。そこにおいて認められる偉大さとは謙遜の偉大さと、他の者たちへの奉仕に対する熱意である。自分を低くする者は高くされ、自分を高くするものは低くされるであろう。自己否定と自己犠牲によって他の者たちに仕えようと求める者たちは、それ自体が神に推奨される品性の特質を与えられ、知恵と、真の忍耐と、寛容、親切、また同情を発達させるのである。これが彼に神のみ国において最高位を与えるのである」とこのお方は言われた。

人の子は神の僕になるために自らを低くされた。このお方はご自分を信じるものたちに自由と生命、またご自分のみ国において場所を与えられるために死に至るまで屈辱と自己犠牲に甘んじられた。このお方はご自分の命を多くの者たちへの身代金として与えられた。これはつねに第一になることを求め、最高位を得るために戦っている者たちに自分たちのとっている行動を恥じ入らせるのに十分であろう。

「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」とキリストは言われた（ルカ 9:23）。これが弟子である証拠である。もし教会員がバプテスマを受けた時に厳粛に誓ったようにみ言葉を行う者となれば、彼らは自分たちの兄弟を愛し、常に一致と調和を求めているはずである。……

キリストを信じこのお方と謙遜に歩く者たち、……他の魂を助け祝福し、強めるために何をすることができるかと見張っている者たちは、救いの相続人となる者たちに奉仕する天使たちと協力している。イエスは彼らに恵みと知恵と義を与えられ、彼らが接触するすべての者たちへの祝福とされる。自分の評価において彼らが謙遜なほど、神から受ける祝福はより大きなものとなる。なぜなら受けることによって彼らが高ぶることがないからである。彼らは与えるために受けるので、自分たちの祝福を正しく用いる。

奉仕する天使たちは人間の器と協力するようにと神のみ座から指示を受ける。彼らはキリストの恵みを人間に与えるために受けるのである。（原稿 165, 1898 年 12 月 13 日「調和、弟子となる試金石」）

12月14日

真理が生活を支配するとき

「わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。」(ヨハネ 8:12)

主イエスはご自分の神性を人性で覆われることによって、ご自分の上に罪深い人間の形をお取りになられた。しかしこのお方は神が聖であられるように、聖であられた。もしこのお方にしみや罪の汚れがあったなら、このお方は人類の救い主となることができなかったのである。このお方は贖罪を必要とされない、罪を負われるお方であった。このお方は品性の純潔と神性において神と一つであられ、全世界の罪のための贖いの供え物となることができた。

キリストは世の光である。このお方を通して光が道徳的暗黒のただ中で輝いている。もしこのお方が光でなかったなら、闇は明白にはならないであろう。なぜなら光は闇を明らかにするからである。光が明るければ明るいほど、光と暗闇の対照がさらに明白になる。光が除かれるなら、そこには闇以外に何もない。

キリストはわたしたちの立場を示された。「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」(ヨハネ 8:12)。このお方ご自身が輝く明けの明星である。このお方が義の太陽であり、ご自分の父の栄光の輝きであられる。このお方は「すべての人を照すまことの光があって、世にきた」お方であられる(同 1:9)。医師、癒し主であるこのお方は罪によって失われた神の道徳的なみかたちを回復するために来られた。

キリストが信仰によって魂に宿られるとき、このお方はご自分を愛する者を主にあって光とされる。真理を信じると言う多くの者たちが名目上の信仰しか持っていないことは事実である。彼らはみ言葉を行う者たちではない。彼らは信じると公言するが、彼らの公言は彼らを改心させない。……

キリストが心に宿られるとき、このお方のご臨在は明白である。善良で快い言葉と行為はキリストの精神を表す。気性の美しさは明らかにされる。怒りの感情や、強情、悪い憶測などは存在しない。考えや方法が他の人々によって受け入れられ感謝されないからといって憎しみが心に存在しない。……

真理が生活を支配するとき、純潔と罪からの自由が存在する。福音の計画の栄光、豊かさ、完全さが生活のうちに成就される。真理の光が魂の宮を照らす。理解がキリストをつかむのである。(原稿 164, 1898 年 12 月 14 日、「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」)

12月15日

人が作り出したくびき

「からだが一つであっても肢体は多くあり、また、からだのすべての肢体が多くあっても、からだは一つであるように、キリストの場合も同様である。」（コリント第一 12:12）

まもなく旧年は記録の重荷と共に永久に過ぎ去り、新たな年が始まる。過ぎ去った年の宝を集めて、新年に神の善と恵みの思い出を持って行こう。将来を過去の祝福の思いによって明るくしよう。

「恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである」（ピリピ 2:12, 13）。わたしたちは主イエスと協力しなければならない。そうすることによってのみ、わたしたちはこの仕事の自分たちの分を果たすことができる。わたしたちはキリストを通して得たすべてのものをしっかりとつかんでいなければならない。

キリストのくびきを負う者たちに何という素晴らしい利益と機会があることであろう。わたしたちに困難が来るのはわたしたちがキリストのくびきを負うことを拒み、わたしたちが自分自身でくびきを作るからである。このお方がわたしたちの能力である。このお方がわたしたちに力を与えられる。わたしたちの役割は自分たちの足を永遠の真理の土台に固く据えることである。そのとき、わたしたちは自分たちの上に神の保護があることを知ることができる。

「このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている」（ローマ 5:1）。義とされるということは、許されるということである。神が義とされる者にこのお方はキリストの義を着せられる。なぜなら救い主がわたしたちの罪を取り除かれたからである。わたしたちは神のみ座の前で義とされ聖化されて立つのである。わたしたちは自己が空にされ、真理の聖化を通してキリストがわたしたちの心に宿られるのである。……

わたしたちは試みられ、テストされている。悪者がわたしたちの上に権を取ることがないように、天におられる主がご自分と共にわたしたちをかくまってくださるように。……

キリストが働き人の偉大な長であられる。わたしたちはこのお方との共労者である。このお方は各自にご自分の働きを与える権利を持っておられる。そして各自が与えられた働きを必ずなすようにしなさい。主がわたしたちの手のうちに置かれた働きを忠実にするようにしよう。他の人が責任を負っている働きのために、明らかに自分の働きであることを怠る者は失格である。時間が浪費され、信頼が侵害され、揺さぶられ、働きが遅らされる。わたしたちが自分の特別の働きに厳密に関心を向けることを学ぶとき、主はわたしたちを助けてくださり、このお方のみ事業におけるすべての部分が調和して動くのである。（手紙 202, 1902 年 12 月 15 日「わたしの親愛なる兄弟姉妹方」へ）

12月16日

風変わりや奇妙さ

「そして、わたしの言葉もわたしの宣教も、巧みな知恵の言葉によらないで、霊と力との証明によったのである。」（コリント第一 2:4）

サタンが今日、過去において働いたように働くことを見ても驚きはしない。わたしたちは信仰によって生きなければならない。なぜなら信仰がなければ神を喜ばせることができないからである。……義を自慢げに主張することまた騒がしい実演は、多くの思いを混乱させる狂信的経験に導くように計画されている。もしそのような事柄が助長されると、神の働きにとって有害となる狂信の波がわたしたちの隊列にまでも入り込むのである。これらの事は、もしできるなら選民をも惑わそうと、サタンによって計画されたのである。

霊の実証によってみ言葉を伝えることはわたしたちの特権である。わたしたちの主イエス・キリストのうちに信仰を働かせることは、すべての魂の特権である。しかし純潔な霊的生涯は、和解させる救い主キリストを通して神の御旨に魂が自らを明け渡すことによってのみ来るのである。聖霊によって働かれることはわたしたちの特権である。信仰を働かせることによって、わたしたちはキリスト・イエスとの交わりに入れられる。なぜならキリストが柔和で心のへりくだった者たちのすべての心に宿られるからである。愛によって働き魂を清める信仰、心に平和をもたらし自己否定と自己犠牲の道において導く信仰は彼らのものである。

真理のみ言葉を語る者の側で、風変わりで奇妙な運動がないようにしよう。なぜならそのようなことはみ言葉によって作られるべき印象を弱めるからである。わたしたちは警戒していなければならない。なぜならサタンはもしできれば、彼の悪の影響を礼拝に混ぜようと決意しているからである。芝居じみたみせびらかしがないようにしなさい。なぜならこれは神の御言葉における信仰を強める助けにならないからである。それどころかそれは注意を人間の器にそらすのである。

真に聖霊の感化の下にいる者たちは、その力を真理の永遠の原則を実際的に適用することによって表すのである。彼らは、聖なる油が二本のオリブの木から魂の宮の部屋の中へと移されることを表すのである。心がやわらかくされ抑えられるために、彼らの言葉は聖霊の力によって吹き込まれるのである。語られた言葉は霊と命であることが明らかにされるであろう。（手紙 352，1908 年 12 月 16 日カルフォルニア連合部会会長、S．N．ヘスケル長老へ）

12月17日

大きな喜びのよき知らせ

「すると主の御使が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照したので、彼らは非常に恐れた。御使は言った、『恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びのよき知らせを、あなたがたに伝える。』」（ルカ 2:9, 10 英文訳）

12月25日は長い間イエスの誕生の日として祝われてきた。そしてわたしの目的は、この日にこの出来事を祝う正当性を確認するか、あるいは問題にするかではなく、わたしたちの救い主の子供時代とご生涯について考えることがわたしの目的である。贖い主が世に来られた謙遜な方法に子供たちの注意を引くことがわたしの目的である。

全天は地上へのキリストの来臨の偉大な出来事に興味を注いでいた。天のみ使いたちはベツレヘムの平野で夜に群れの番をしていた卑しい羊飼いに、長い間約束され長い間待たれていた救い主の誕生を知らせるために来た。救い主の誕生において羊飼いたちの注意を引いた第一の兆候は、驚きと感嘆を彼らのうちに満たした星空のまばゆい光であった。……驚いた羊飼いたちは天使たちによって彼らにもたらされた尊いメッセージをほとんど理解することができなかった。そして、そのまばゆい光が過ぎ去ったとき、「さあ、ベツレヘムへ行って、主がお知らせ下さったその出来事を見てこようではないか」と、彼らは互に語り合った。そして急いで行って、マリヤとヨセフ、また飼葉おけに寝かしてある幼な子を捜しあてた。彼らに会った上で、この子について自分たちに告げ知らされた事を、人々に伝えた」（ルカ 2:15-17）。

堕落した世に何という比類のない愛をイエスは表されたのであろう。もし天使たちが救い主がベツレヘムでお生まれになったということで歌ったのであれば、わたしたちの心は「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」という喜びの調子を反響しないであろうか。わたしたちはキリストの誕生の正確な日を知りはしないが、聖なる出来事を尊ぶのである。だれも正確な時について不確かであるからといって、この出来事を見過ごしにするほど心が狭くなることを主が禁じられるように。イエスを愛する者たちにとって尊いこれらの事柄を子供たちの思いにしっかりと結びつけるためにできることをしよう。彼らにイエスが望み、慰め、平和、喜びをすべての者にもたらすためにどのように世に来られたかを教えよう。……すべての者の心が神の御子という貴重な賜物のために、非常な喜びをもって応じるようにしよう。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1889年12月17日）

12月18日

キリストが導くようにさせなさい

「それから、弟子たちがイエスに近寄ってきて言った、『なぜ、彼らに譬でお話しになるのですか』。そこでイエスは答えて言われた、『あなたがたには、天国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていない。』」（マタイ 13:10, 11）

キリストは、真理のない、あるいは真理に対する愛のない者、またその心が自分自身の気質と思いのままにしてきた傾向によって惑わされた者はご自分の教義を知ることができないように、譬によって説教をなさり、ご自分が提示された偉大な真理を譬の下に隠されたことをご自分の弟子たちに知らされた。……

実を結ばない傍観者たちは懐疑的、表面的、世的な者として主によって明白にされた。これらのものは真理の道徳的栄光または彼ら自身の心へのその実際的個人的適用を識別することができない。彼らは世に勝たしめる信仰に欠けており、その確かな結果として世が彼らに勝つのである。……

理解力を開き、速く、鋭くするのは、神との密接な関係である。キリストの時代の人々は、見ても見ない盲目や、聞いても聞かない故意の耳しいを自ら招き、また理解することもなかった。イエスは、イザヤが同様のことをあらかじめ述べているのだから、彼らの不信に関してご自分が述べられたことを彼らが驚く理由はないと、彼らに仰せになった。〔マタイ 13:13-15 引用〕。……

この時代のための真理を信じると公言している者たちのある者たちは、同様な立場を占めるのである。彼らは神がご自分のみ言葉を確かなものにするための驚くべき働きを理解しない。彼らは神の霊の働きがこのお方のみ力によってなされることを悟ることがない。証拠が不十分であるからではなく、彼ら自身の心の強情さと堕落が、これらの証拠を正直にありのままよく考えてみることを許さないからである。なぜなら、人々の罪が彼らの心をかたくなにし、この世と妥協することによって神聖な事柄に対する彼らの概念が曇らせてきたからである。……彼らは神の都へと続く義の道に導かれることを快しとしないのである。

わたしたちの信頼は完全に神になければならない。このお方はわたしたちにとって、すべての必要な時においていと近き助けとなられる。主を待ち望み、このお方のみ約束に信仰を働かせよう。このお方はわたしたちに耳を傾けてくださる。ただ信じなさい。わたしたちの救いの将は、わたしたちが自分たちの船を導くがままに放ってはおかれない。わたしたちがこのお方の助けとこのお方の知恵を必要としていると、このお方がご覧になるときに、わたしたちはそれを得るのである。（手紙 24, 1882 年 12 月 18 日、W．C．ホワイトへ）

12月19日

きょう、選びなさい

「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。」（ヨシュア 24:15）

強風が吹くほど風がますます強くなっている。わたしは〔ウェイララパ汽船の〕甲板に危険を冒してまで行かない。わたしは喜んで静かにしている。……

わたしは「静まれ、黙れ」と仰せになり、嵐を静められたキリストを求めて、心を神の御許へ上げていた。

たちまち天に虹がかかった。雲の中にある虹のうちに神のみ約束のしるしを見ることができ、このお方の保護する御腕のなかで信頼のうちに安んじていた。

待機中の女性〔すなわち、スチュワーデス看護婦〕はわたしにとても親切である。わたしは彼女にキリストへの道といくつかの読み物とパンフレットをあげた。わたしは彼女の魂の救いについて彼女と話した。わたしは生活が海の上にある者たちの危険について指摘した。彼女はたびたびこのことについて考えたことがあると言ったが、彼女は「もしできるならばクリスチャンになりたいですが、できません。このような船舶において神に仕えるのは不可能なことです。あなたは知らないのです。あなたはこれらの船員の邪悪さについて全く考えもつかないことでしょう。船長と仲間たちは船の乗組員とあまりにも同じ性質で似通っており、改革を取り入れるような影響力はまったくないのです。もし彼らがそのようなことを望めばのことですが」と言った。わたしはなぜ他の職業を探さないのかと彼女に聞いた。彼女は言った、「それはむだです。わたしは四人の子供たちを養わなければならないし、わたしは重労働をする力はないのです。」彼女は小柄で、虚弱で上品な顔立ちの女性であった。……

わたしは祈りのない生活を生きる危険について彼女に明らかにしようとした。「ここで祈ること、または信心深くしようとすることはむだです」と彼女は言った。わたしはもし主が彼女にその場所を定められたのであれば、キリストを自分の救い主として受け入れれば、キリストが自分の避け所であることを悟るはずだと話した。彼女は目に涙を浮かべて言った、「それは不可能です。わたしはこの船にいる仲間たちを良く知っています。わたしはここで宗教に生きることができません。わたしはいつか自分の家族を養うことができるようなどこかの場所が開かれることを願います。そうしたら真剣な事柄に思いを向けるでしょう。もしわたしが子供たちと共にいてささやかに彼らを養うことができさえすれば、わたしは非常に喜んでそうします。」（原稿 88，1893 年 12 月 19 日、日記、ニュージーランドからオーストラリアのシドニーまでの航路において）

その後、エレン・ホワイトはこのスチュワーデスが数週間後に海で亡くなったことを知った。救助された二人のうちの一人は、あまりの邪悪さのためにこの船舶から退職する決意を表明した同じ船の同僚であった。

12月20日

パンくずを集めなさい

「少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい」（ヨハネ6:12）

今朝、もっと正確に言えば12時に、わたしは風によって飛ばされていた日除けを調節するために起きた。そして祈祷週における働きにおいてコーリス長老と一緒になることになっていた、サンフランシスコへ行くために6時の列車に乗りに出かける前に読まなくてはならない原稿に気づいた。この原稿と一緒にわたしが夜中に読んだあなたからW．C．W．[ホワイト]への手紙があった。この手紙はわたしにとって特別に興味深いものであり、それを読んだ後、わたしは眠るということは考えられなかったので、わたしは服を着て、ちょうど今わたしの書き物用のいすに座っている。

この老年のわたしにとってこの快適な隠れ家〔カルフォルニアのセント・ヘレナの近くであるエルムズハブン〕をわたしが表現できる以上に感謝している。わたしは20年前からいくらも年をとったと感じないが、これからもう長くはないだろうと思っているので、わたしの執筆を整える働きを終わらせておきたいと大いに願っている。こうして、もしわたしが急に取り去られたとしても、他の者たちがそれを取り扱えるようしかるべきかたちにしておき、しばしばわたしに繰り返されてきた「少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい」という指示を実行することができるためである。……

ここではわたしたちはあらゆる種類の豊かな果物がある。わたしたちの環境はとても快適で見るにも喜ばしいものである。わたしたちには永遠の丘から来るきよらかな水が豊かにあり、ぶどうも豊かにある。

わたしは今これ以上書かないが、あなた方二人がしばらくの間、すべての神経と筋肉を最高にはりつめていなくても良い場所に置かれることを願っている。いかなるかたちであっても僭越になることは最善ではない。主はご自分の疲れた僕たちが骨折りによって自分の命を犠牲にすることなく、ペンや声をもって有利な幅広い経験を表現する機会のあるような場所に置かれるチャンスがあるよう望んでおられる。教訓と模範によって人は働きの負担をになうように教育されるべきであり、今まで重荷を負ってきた者たちは、「これは道だ、これに歩め」というこのお方のみ言葉を表明するために神が彼らにお与えになった命を守るべきである。

わたしはここで止める。わたしの時計は3時を指している。愛を込めて、エレンG．ホワイト。（手紙161，1900年12月20日、アフリカにおいて働いておりエレン・ホワイトの職員に加わるように招かれていたドルイラード兄弟姉妹へ）

12月21日

ゆらめくともし火

「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」（マタイ 5:16）

神のみ前において教会が自分たちの義務と責任に目覚めて十分に自覚し、世に対して、はっきりと安定した輝かしい光線を輝かせるようになるのを見たいとわたしは願う。多くの者たちの光はあまりにもゆらめき、変わりやすく、不確かである。あるときには輝かしい光線によって燃え出すが、しばらくするとほとんど消滅するのである。イスラエルの主なる神は、光のうちにおいてと同様に、光が道徳的暗黒の只中においても確実に輝かない限り栄光を受けられない。義の太陽に光は薄暗くなることはない。それは常にわたしたちの上にあって輝いている。サタンがわたしたちの道を横切って恐ろしい影を投げかけるのにもかかわらず、光は彼方に輝くのである。

そうであるならなぜイエスに従う者たちは、義の太陽の輝かしい光線を反射しながらこのお方の光のうちに歩まないのであろうか？彼らはこれをすることができる。キリストは彼らにこれをするようにと命じられ、これをすることが彼らにとって可能にされるのである。なぜならこのお方は彼らにとってすることが不可能なことを、彼らにするようには命じられないからである。彼ら自身の幸福と平和のためだけではなくて、世の善のために可能なことはなされなければならない。

義の太陽の光線をつかんで、わたしたちは日毎に魂を天へ向かって向上させなければならない。神はご自分を恐れ愛する民に情け深くなることをお忘れになられただろうか。否。このお方はご自分のあわれみの心を試され試みられているものたちに届くことがないように閉ざされただろうか。わたしはあなたにそうではないと言う。わななき、疑っている魂よ、上を見あげなさい。ご自分の血によって買い取られた者たちの上で愛によって輝いているイエス・キリストの御顔を見上げ、もうこれ以上疑ってはならない。

イエスはあなたの弁護人、あなたの大祭司として生きておられる。このお方は天の宮廷において御父の前でのあなたの代理人である。このお方の仲保はあなたの信仰が求めているすべてのものを保証する。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう」（マタイ 7:7）。だれがこのように言われたのだろう。とこしえの父、平和の君である。このお方はあなたの救い主である。このお方がみ言葉に対する忠実さを裏切るようなことは決してない。このお方はご自分を偽るようなことはなさらない。神は約束された。信仰によってその約束を求めよう。（原稿 24, 1889 年 12 月 21 日、日記）

愛は律法を完成する

「愛は隣り人に害を加えることはない。だから、愛は律法を完成するものである。」（ローマ 13:10）

キリストが人のうちで最も高く評価される特性は純潔な心から出る愛（Ｃｈａｒｉｔｙ）である。これはクリスチャンの木で結ぶ実である。「すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている」（ヨハネ第一 4:7）。主なるイエスは「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」（ヨハネ 13:34, 35）。

雲の柱に覆われていたときこのお方はモーセを通してイスラエルの子らに話された、「あなたは心に兄弟を憎んではならない。あなたの隣人をねんごろにいさめて、彼のゆえに罪を身に負ってはならない。あなたはあだを返してはならない。あなたの民の人々に恨みをいだいてはならない。あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない。わたしは主である」（レビ記 19:17, 18）。「これらのことを命じるのは、あなたがたが互に愛し合うためである」（ヨハネ 15:17）。

もしあなたが聖書的なクリスチャンなら、各自は自分自身のように自分の兄弟である労働者に対して大きな関心を持つのである。今にも滅びようとしている魂に命のパンを与える働きが、働き人たちの心をまったく夢中にさせて、それを互いに親切でやさしくあるように守るべきである。働きにおいてすべての働き人たちのうちに無私の関心を持つように、真のクリスチャンの礼儀は培われなければならず、思いと心は親切な行いによって教育され訓練されなければならない。

異教徒のうちにおいてではなく、あなた自身の兄弟たちのうちにおいて自分自身を宣教師と見なしなさい。真理に関して一人の魂を説得するために莫大な時間と働きを必要とする。男女を罪から義へと向きを変えさせるために何と多くのお金が費やされてきたことであろう。そして魂が真理へ招き入れられる時、天において何が起こるであろうか。罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔改めを必要としない〔と考えている〕99 人の正しい人のためにもまさる大きい喜びが、天使たちの間にあるのである（ルカ 15:7 参照）。

もしあなたが神の愛のうちに自らを保つなら、命に至らせる命の香りとなる感化が魂を囲むであろう。申し開きをしなければならないものとして、魂を見張っていなければならない。（原稿 16,1892 年 12 月 22 日、「兄弟への愛」）

12月23日

水がぶどう汁に

「イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行い、その栄光を現された。」(ヨハネ 2:11)

キリストが出席なさっていたガリラヤのカナにおける婚宴の間、ある原因でぶどう酒のたくわえが切れてしまったことがわかった。これは大変な当惑と悲嘆を起こした。宴会をぶどう酒なしですませることは異例であって、それがないことはもてなしが足りないことを暗に示しているかのように思われるのであった。マリヤは関係者の親戚として宴会の仕度を手伝っていたので、イエスに「ぶどう酒がなくなってしまいました」と告げた(ヨハネ 2:3)。この言葉は、このお方が彼らの必要を満たしてくれるかもしれないという暗示だった。しかしイエスは、「婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありますか。わたしの時は、まだきていません」とお答えになった(4 節)。

キリストの答えは母親を落胆させなかった。ちょうど良いときにこのお方はご自分の役割を果たされるのであった。「母は僕たちに言った、『このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい』。そこには、ユダヤ人のきよめのならわしに従って、それぞれ 4, 5 斗もはいる石の水がめが、6 つ置いてあった。イエスは彼らに『かめに水をいっぱい入れなさい』と言われたので、彼らは口のところまでいっぱいに入れた。そこで彼らに言われた、『さあ、くんで、料理がしらのところに持って行きなさい』。すると、彼らは持って行った」(5-8 節)。

時が満ちたとき、キリストによってなされた奇跡は認識された。宴会の長がコップを唇に当ててぶどう酒の味を見たとたん、彼は喜びの驚きをもって顔を上げた。ぶどう酒は彼が今まで飲んだ中で最高のものだった。そしてそれは発酵していないぶどう汁であった。彼は花婿に「どんな人でも、初めによいぶどう酒を出して、酔いがまわったころにわるいのを出すものだ。それだのに、あなたはよいぶどう酒を今までとっておかれました」と言った(10 節)。

キリストはかめに近づかれなかったし、水に触ることもなさらなかった。キリストはただ水を見られ、それは純粋な清く洗練されたぶどう汁になった。この奇跡はどのような結果を出したのだろうか。—「弟子たちはイエスを信じた」(11 節)。……この奇跡によってキリストはまたご自分の恵みと憐れみの証拠を与えられた。このお方はご自分の知識と知恵の言葉を聞くために従う者たちの必要を考慮されていることを示された。(原稿 79, 1900 年 12 月 23 日、日記)

12月24日

どのように成功者となるか

「すべての物はあなたから出ます。われわれはあなたから受けて、あなたにささげたのです。」（歴代志上 29:14）

あなたが神にあって繁栄していることをわたしたちは願っている。もしわたしたちがこのお方の関心と承認があればわたしたちがどこにいようと、わたしたちが何に携わっていようともわたしたちは成功するのである。神の祝福なくしてどのような繁栄であろうと成功しないのである。わたしたちの第一に切望していることは、神をわたしたちの友として得ることである。「わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ」（イザヤ 27:5）。

自分自身に仕えることを務めとして、あなたに課されている神のご要求について無関心になってはならない。あなたはこのお方の所有物である。確固とした原則を持ちなさい。イエスがあなたを無限の価で買われたことを考えて見なさい。あなたの考えは純潔に保たれなければならない。それは主のものである。それをこのお方に捧げなさい。神から報いを得ることはできない。わたしたちはこのお方に、このお方のものでないものを捧げることができない。わたしたちは神ご自身のものを捧げずにとっておくのであろうか。世と一緒になって、神から盗み、このお方の時間や、このお方の才能、このお方の力を質に入れてはならない。このお方はあなたの愛情を求めておられる。それらをこのお方に捧げなさい。それらはこのお方ご自身のものである。このお方は一瞬一瞬、あなたの時間を求めておられる。それをこのお方に捧げなさい。それはこのお方ご自身のものである。このお方はあなたの知性を求めておられる。それをこのお方に捧げなさい。それはこのお方ご自身のものなのである。

霊感に満たされた使徒の言葉を覚えていなさい。「あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ」（コリント第一 6:19, 20）。もしあなたが滅びるとしても……あなたは買われたのである。主はご自分の所有物を所望される。わたしたちが神に魂、体、霊を捧げたとき、またわたしたちが食欲を啓発された良心の支配の下に置き、すべての器官をこのお方の奉仕という目的のための主の所有物であると見なしていることを示しつつ、あらゆる欲に対して戦うとき、またわたしたちのすべての愛情が主の思いと調和して動き、「キリストが神の右に座しておられる」「上にあるもの」に固く結ばれているとき（コロサイ 3:1）、―そのとき、わたしたちは主ご自身のものを主にお捧げしたのである。ああ神よ、「すべての物はあなたから出ます。われわれはあなたから受けて、あなたにささげたのです」（歴代志上 29:14）。

どんなことがあっても、あなた自身のためだけに生きてはならない。あなたが与えることができる助けをいつも必要としている者たちがいる。イエスはご自身をわたしたちのために与えられた。なんというへりくだりであろう。自己を否定し他人を祝福しよう。このお方の道とこのお方の御旨を選ぶことによって神に栄光を帰そう。このお方があなたの賢明な相談相手、あなたの固く変わることのない友となられる。（手紙 23, 1873 年 12 月 24 日、エドソン及びエマ・ホワイトへ）

12月25日

貧しい人や苦しんでいる人に対する わたしたちの義務

「あなたの神、主が賜わる地で、もしあなたの兄弟で貧しい者がひとりでも、町の内におるならば、その貧しい兄弟にむかって、心をかたくなにしてはならない。また手を閉じてはならない。」（申命記 15:7）

旧約聖書の中に、山上の垂訓でキリストがお与えになった原則とまったく同じ原則が明らかにされていた。律法学者やパリサイ人たちは、日常生活の習慣の中でこれらの原則をあまりにも知らなかったので、キリストの山上の説教は彼らにとって新しい啓示であり、彼らの耳には異端のように響いた。彼らは聖書を誤って解釈しており、ラビからラビへと彼らにまで伝えられた人間の格言やことわざを霊感の神聖さをおびたものとみなしていた。しかし人間の命令は神の命令と違って、彼らの肉の心にはよりなじむのであった。律法を制定なさったイエスは、これらの敬虔な教師だと自称する者たちがどれほど律法から離れているかを、また彼らが自分たちの伝統によってそれをどれほど無効にしているかをご存知であった。彼らは「人間のいましめを教として教え」、無意味に神を礼拝していた。

イエスは彼らに神の律法の遠大な原則を明らかになさった。いにしえのラビたちによって語られてきたものは、しばしば繰り返され、年月を経て古めかしいものであったにもかかわらず、また人々によって神の権威に等しいものだとみなされていたにもかかわらず、ご自身の神聖な原則と対照的に示された。旧約聖書の中でこのお方がお教えになった教訓を、新約聖書でも繰り返された。このお方は彼らに憐れみと同情と愛を、接触するすべての人に対して働かせるようにとお命じになった。……

もしイスラエルが自分たちに知らされてきた神のみ旨を実行していたなら、心の清い者たちに約束された祝福は彼らにとどまっていたはずであった。彼らは神を見ていたはずであり、このお方を眺めることによって、品性がこのお方に似た者となっていたはずであった。心が変り、品性がキリストの品性に似たすがたに一致するまで、絶えず働く原則と聖霊の力が人間の性質に働いていたはずであった。毎日キリストのみ言葉を実行するうちに、このお方のみ旨を行うことが喜びとなる。キリストは神の律法を生きるために、また万事につけわたしたちの模範（パターン）となるためにわたしたちの世に来られた。このお方は憐れみの座と、見せびらかしや誇りや虚栄に満ちた心無い膨大な数の礼拝者たちとの間に自らの身を置かれ、単純で雄弁なご自分の真理の教訓によって、民に霊的な礼拝の必要性を印象づけられたのであった。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1894 年 12 月 25 日）

一致

「さて……あなたがたに勧める。あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き、できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。」（エペソ 4:1-3）

キリストが裁判と十字架の前にご自分の民のために捧げられた祈りを読みなさい。キリストはご自分の人性において落胆と試練に苦しまれた。聖書の中でキリストを神の子と信じることを多くの者たちが拒んだことを読むとき、悲しみがわたしの心を満たす。ご自分の兄弟たちでさえもこのお方を信じることを拒んだことを読む。

わたしたちは一致と信仰のうちに打ち破られることのない戦線を示さなければならない。わたしたちは主とこのお方の恵みの力において強くならなければならない。……敵が入り込み彼の種をまくのは不和を通してである。わたしたちは自分の言葉をもっと少なく、神のみ言葉をもっと多く必要としている。わたしたちは時の終わりに近づいており、間違いを犯す余裕がないのである。真理が勝利を勝ち取る。わたしたちは「兄弟愛をもち、あわれみ深くあり、謙虚」にならなければならない（ペテロ第一 3:8）。わたしたちはクリスチャンの礼儀を実践しなければならない。冷酷な鋭い言葉への柔らかい答は憤りをとどめる。……

キリストはあまりにも簡単に作り出され、前面に表された不和によって傷つけられた。ヨハネの第 17 章を開いて、キリストの祈りを読みなさい。ご自身がみ父と一つであるように、ご自分の弟子たちが一つになるようにとの懇願を読みなさい。わたしたちは自分たちの不和を明白にすることを小さな事柄と見なす時、大いに神に屈辱を与えるのである。これは確かにわたしたちの魂と他の魂を弱めるのである。……

わたしたちが自分たちの考えと意見を持ち出すとき、わたしたちは他人を誤って導くのである。率直な「主はこう言われる」に重要性をおくことによって、あなたはキリストとの共労者になるのである。

「こうして、あなたがたは、神に愛されている子供として、神にならう者になりなさい。また愛のうちを歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さって、わたしたちのために、ご自身を、神へのかんばしいかおりのささげ物、また、いけにえとしてささげられたのである」（エペソ 5:1, 2）。キリストの指令に従って心と思いを形作る何という壮大で包括的な真理が、神のみ言葉の中から輝き出ていることであろう。夜の間わたしは天来の教師によってこれらの言葉が一団に話されていることを聞いた、「あなた方の計画を調和させなさい。あなた方の間で不和があってはならない。」

わたしの兄弟よ、わたしはあなたに上を見あげなさいと言う。信仰と希望を語りなさい。暗い側を見てはならない。あなたの心とあなたの唇に讃美と歌があるようにしよう。（手紙 398, 1906 年 12 月 26 日、D. H. クレス医師と夫人へ）

12月27日

キリストの戦列において働く

「父なる神のみまえに清く汚れのない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まずに、身を清く保つことにほかならない。」（ヤコブ1:27）

もしわたしたちが他の者たちに家族を訪問し共に祈り、世にイエスがわたしたちのために何をなされたかを示すことによって神との共労者となるように教育しないなら、わたしたちの働きは不完全である。神のみ言葉は「父なる神のみまえに清く汚れのない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まずに、身を清く保つことにほかならない」と宣言している（ヤコブ1:27）。これらの言葉はキリストに従うすべての者たちに話された。牧師だけではなく、このお方とつながっているすべての魂はこのお方のぶどう園において働き人にならなければならない。「あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう」とキリストは言われた（ヨハネ15:8）。キリストはあなたの真剣で心からの協力のためにご自分の命をもって支払われた。もしあなたが忠実な伝道者として働かないならば、あなたは自分の信任に対して不誠実となり、あなたの救い主を失望させるのである。……

神はご自分のみ言葉のうちにこの働きがなされなければならない唯一の方法を示された。言い開きをしなければならない魂のために働いて、わたしたちは真剣で忠実な働きをしなければならない。「悔い改めよ。悔い改めよ。」というメッセージが、荒野でヨハネによって鳴り響かされたメッセージである。……

キリストの人々に対するメッセージは、「あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びるであろう」であった。そして使徒たちは人々が悔い改めるようにとあらゆるところにおいて宣べ伝えるように命じられた。主は今日もご自分の僕たちに古い福音の教義、罪への悲しみ、悔い改め、告白を宣べ伝えるようにさせられる。わたしたちは時代遅れの説教、時代遅れの習慣、キリストのやさしさを持っているイスラエルにおける時代遅れの父と母を必要としている。

罪人は自分が神の律法の犯罪者であることを知り、神に対する悔い改めと主イエス・キリストに対する信仰を働かせるまで根気よく、真剣に、賢く働きかけられなければならない。罪人が自分の無力な状態に気づき、自分の救い主への必要を感じるとき、彼は信仰と希望をもって「世の罪を取り除く神の小羊」のもとに来ることができる。キリストは真の悔い改めのうちにご自分のもとにくる魂を受け入れられる。主は砕けた悔いた心を軽んじられない。

戦列にあってときの声が響いている。十字架のすべての兵士は自己満足ではなく、柔和で心のへりくだりのうちに戦線まで押し進もう。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽ 1899年12月27日）

12月28日

み翼のもとで

「もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害するであろう。」（ヨハネ15:20）

神の奉仕へ聖別されたと公言する者たちが、自分たちが信じているのと同じ教義を信じないからといって同胞を迫害することほど、サタンが働いているというさらに大きな証拠はない。これらの者たちは自分たちが真実でないと知っていることを真実として語り、神の民に対して憤りをもって殺到する。このように彼らは兄弟を訴える者、また神の聖徒の殺人者によって動かされていることを示すのである。しかし、神がご自分の御子に対して祭司たちがしたことを許されたように、圧制者たちがわたしたちにすることを許されるからといって、わたしたちは自分たちの信仰を放棄し、破滅に戻るべきだろうか。神がこれらのことが起こることを許されるのは、神がわたしたちのことを心にかけてくださらないからではない。なぜならこのお方は「主の聖徒の死はそのみ前において尊い」と宣言されるからである（詩篇116:15）。

サタンを彼らの頭として彼の霊を吹き込まれた者たちが神の民を悩まし、体に痛みを与え、彼らのこの世の命を取り去るかもしれないが、彼らはキリストと共に隠された命に触ることはできない。わたしたちは自分自身のものではない。わたしたちの魂と体はカルバリーの十字架で払われた値によって買われ、わたしたちは自分たちを造られたお方のみ手のうちにいることを覚えるべきである。サタンが悪人たちにするように鼓舞することは何であっても、わたしたちは自分たちが神の保護のもとにあり、またこのお方の霊が耐えるようにわたしたちを強められるという確信のうちに休むべきである。……

「さあ、わが民よ、あなたのへやにはいり、あなたのうしろの戸を閉じて、憤りの過ぎ去るまで、しばらく隠れよ。見よ、主はそのおられる所を出て、地に住む者の不義を罰せられる。地はその上に流された血をあらわして、殺された者を、もはやおおうことがない」と言われる時がまもなく来ようとしている（イザヤ26:20, 21）。

神を愛する者たちは、クリスチャンと公言する人々が神の民の良心を強制することができないゆえ憎しみに満たされるのを驚く必要はない。その後まもなく彼らは神の遺産である体と魂に痛みを与えたことについて、申し開きをするために全地の裁判官の前に立つのである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1897年12月28日）

12月29日

神のみ旨への完全な一致

「イエス・キリストは、きのうも、きょうも、いつまでも変ることがない。」（ヘブル 13:8）

わたしの兄弟姉妹方、わたしたちはキリストの完全さの模範をいつもわたしたちの前に保つ必要がある。わたしたちは自分の思いが他人の不完全さについて考えることを許すとき、わたしたちの魂は悪のパン種によって満たされるのである。

わたしたちがこの時代の真理を表そうと努めるとき、わたしたちは多くの困難に会うであろうが、もしわたしたちが尊い救い主の上に心と思いを置き続けるなら、もしわたしたちがこのお方の愛と力について語るなら、当惑は過ぎ去り、わたしたちは救い主の愛の確信のうちに幸福になるであろう。わたしたちは世とその移ろいやすさに頼るべきではない。満ちみちているいっさいの神の徳がかたちをとって宿っているお方、知恵と知識のいっさいの宝が隠されているお方が、わたしたちの喜びであり、また喜びの冠であり、わたしたちの平和、わたしたちの力、わたしたちを満ち足らせるものである。そうであるなら、内外で何が起ころうとも喜ぼうではないか。

わたしたちは、わたしたちが現世において愛と一致のうちに共に宿ることができるようにするキリストの恵みの高さを得なければならない。そうしなければわたしたちは来るべき生涯において共に宿ることはできない。わたしは民にキリストが祈られた一致の必要を示そうと努めている。魂は神のみ言葉の力と権威とを完全に所有しなければならない。完全な模範であられるキリストが常にわたしたちの前におられる。このお方にすべての過ちに勝利する恵みと力を仰ぎ求めることができる。

わたしたちはキリストのご生涯のうちにわたしたちに示された完全な原則を、日常生活において実行することによって神の大いなる日のために準備することができる。わたしたちはこのお方の代理人となるようにと、このお方によって召されている。わたしたちは神の子供である。霊的養子縁組によって、わたしたちはこのお方の息子娘となるのである。わたしたちは生活と品性においてこのお方を代表することによって、このお方のみ旨への一致のうちに生きるべきである。

神のみ旨への完全な一致は永遠の命が与えられる条件である。……わたしの兄弟姉妹よ、主があなたがたを祝福され、主のみ言葉の知識を通してあなたがたに関するこの方のみ旨の完全な理解へとあなた方を導かれるように。（手紙96，1911年12月29日、ノースダゴタ州にいる信徒であるJ．J．グラベル夫人へ）

12月30日

イエスのみ足の跡を踏む

「すなわち、それぞれの能力に応じて、ある者には五タラント、ある者には二タラント、ある者には一タラントを与えて、旅に出た。」（マタイ 25:15）

マタイ 25:4-46 に書かれている指示を学びなさい。この指示をあなたの生涯の記録と比較して見なさい。全ての者が自分の誇りを捨て去るようにしなさい。……真の信仰のすべての謙遜にあってキリストのみ足の跡を踏もう。救い主に日々毎時間自分自身を捧げ、常にこのお方の恵みを受け与えることによってすべての自己信頼を捨て去ろう。わたしはキリストを信じると公言するものたちに、神のみ前で謙遜に歩むようにと懇願する。誇りと自己高揚はこのお方に対する侮辱である。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」（マタイ 16:24）。このみ言葉に従うものたちだけをこのお方はご自分を信じるものとして認められる。「彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである」（ヨハネ 1:12, 13）。

「言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った」（同 14 節）。何というへりくだりであろう。天の君、天の万軍の将がその高い地位から降りて、ご自分の王衣と王冠をわきにおき、ご自分の神性に人性をまとわれたのである。それはあらゆる階級の人々の神なる教師となられるためであり、人類の前であらゆる利己心や罪のない生涯を送って、彼らがご自分の恵みを通してどのような者になれるかという模範を彼らにお示しになるためであった。

「言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた」（同 14 節）。この素晴らしい記述について神をほめたたえなさい。ここに示されている可能性はわたしたちが把握するにはあまりに大きすぎて、わたしたちの弱さとわたしたちの不信仰を恥じさせるのである。この生涯においてわたしたちの唯一の希望は信仰の手を伸ばし、救おうとして差し出されている御手をつかむことである。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」（29 節）。わたしたちが自分からイエスにと目を転じ、このお方をわたしたちの導き手とするならば、世はわたしたちの教会に今見ない力を見るようになるであろう。（原稿 166, 1905 年 12 月 30 日、「積極的な働きがなされるべきである」）

12月31日

何事もあなたを脱線させてはならない

「ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目ざして走り……努めているのである」（ピリピ 3:13, 14）。

何事もあなたを自己否定の道からそらさせることを許してはならない。古代において体力の競争に参加した者たちについてこのように記されている、「しかし、すべて競技をする者は、何ごとにも節制をする。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするが、わたしたちは朽ちない冠を得るためにそうするのである」（コリント第一 9:25）。わたしたちは大いなる闘争に携わるものとして、失敗するなら、何を失うかについて考えてみよう。わたしたちは神の御子の血によって買われた永遠の命を失うのである。そうであるなら永久に警戒する骨折りを惜しむべきであろうか。もしわたしたちが悪に抵抗して障害物を克服するにあたりわたしたちの力のできるすべてのことをなすなら、わたしたちは勝利を得るのである。活力がキリストにおける高い召しの賞与を得ようとする努力に報いるであろう。

主イエスから注意をそらすために世俗的な魅力が提示されるであろう。しかしわたしたちは、神のみ顔を見る望みは、その望みに到達するために要求されているすべての努力と犠牲を払う価値があることを世と天使と人々に示すために、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて前進すべきである。……「わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである」（ピリピ 3:13, 14）。

「この一事を努めている。」パウロは彼の生涯の一つの偉大な目的から何事も彼をそらすことを許さなかった。……生活の忙しい働きにおいて、彼は高い召しの賞与を得ようと努めるという彼の一つの偉大な目的を見失うことはなかった。

パウロを苦難と困難にもかかわらず前進するように強いた偉大な目的が、あなたを神の奉仕へと自分自身を完全に捧げるように導くようにさせよう。すべてあなたの手のなしうる事は、力をつくしてなせ。あなたの働きを賛美の歌で楽しくしよう。もしあなたが天の書にきれいな記録を持ちたいと望むなら、いらだったり、叱ったりしてはならない。あなたの日毎の祈りが次のようになるようにしよう、「主よ、最善が尽せるように助けてください。もっとりっぱな仕事ができる方法を教えてください。力と快活な精神を与え、わたしの働きの中に救い主の愛の奉仕が実行できるようにしてください」。（手紙1, 1903年12月31日「わたしの親愛なる兄弟姉妹方」へ）

研究 12

清めの特別な働き

3. 清めの特別な働き、罪の除去

白い衣に覆われ

清めの特別な働き、罪の除去が地上の民の間で行われなければならないことを見てきました。その結果は何でしょうか。あらかじめその結果を、主はご自分の忠実な僕に示されました。

白い衣に覆われ、手にしゅろの葉を持ち

「その後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、数えきれないほどの大ぜいの群衆が、白い衣を身にまとい、しゅろの枝を手に持って、御座と小羊との前に立ち」(黙示録 7:9)。

「長老たちのひとりが、わたしにむかって言った、『この白い衣を身にまとっている人々は、だれか。また、どこからきたのか』。……『彼らは大きな患難をとおってきた人たちであって、その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのである』。」(黙示録 7:13, 4)。

「あなたは幻の霊感をとらえるであろうか。あなたは自分の思いがこの光景にとどまるようにさせるであろうか」(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1908 年 12 月 17 日)。

「賢明な人、偉大な人、慈善に富んだ人たちだけが、天宮への旅券を獲得するのではない。それはまた、熱心で、休まず活動している忙しい働き人だけでもない。そうだ、心の貧しい者―キリストの内住を熱望し、謙遜な心をもち、神の

みこころを行うことを最高の望みとしてる人こそ、十分に天国にはいるのである。彼らは、衣を洗い、小羊の血によって衣を白くした人たちの仲間にはいるのである」(各時代の希望中巻 7)。

「もしあなたがこの群れの中にいたいのであれば、この世の生涯でいかに試練を避けることができるかを検討してはならない。絶えず自分たちがどれほど小さい群れであるかを考え続けるのではなく、あなたがたの目をイエスに固定していなさい。このお方ご自身のくちびるより次の言葉がわたしたちの時代にまで鳴り響いているのである、『わたしよりも父または母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりもむすこや娘を愛する者は、わたしにふさわしくない。また自分の十字架をとってわたしに従ってこない者はわたしにふさわしくない』(マタイ 10:37, 38)。」(ﾋｽﾄﾘｶﾙ・ｽｹｯﾁ 233)。

「クリスチャン経験を得て、真の高尚な品性を発達させるには、わたしたちはいくらかの犠牲を払うことになろう。……しかし贖われた者たちの白い衣の群れは、小羊の血で自分たちの衣を洗い、白くした人々なのである」(わたしたちの高い召し 338)。

「ヨハネは、幻のうちに、白い衣をまとった群れを見た。……彼らは神の宮の中にいるのが見られた。これはキリストの功績をつかんで、自分たちの衣をこのお方の血潮で洗うすべての人々のための結果となる。わたしたちがキリストと共にこのお方の御座に座することができるためのすべての備えはなされた。しかし、条件はわたしたちが神の律法との調和のうちにいることである。……」(天国で 370)。

「わたしたちが洗うための備えはなされた。泉は無限の代価をもって備えられた。そして洗う責任はわたしたち、すなわち神のみ前に不完全な者に負わされている。主はわたしたちが自分の側で何もしないでこれらの汚れのしみを取り除こうとは申し出られない。わたしたちは小羊の血で自分たちの衣を洗わなければならない。わたしたちは信仰によってキリストの血の功績をつかむことができる。そして、このお方の恵みと力を通して、わたしたちは自分の過ち、自分の罪、自分の品性の不完全さに勝利する力を得、自分たちの衣を小羊の血で洗って勝利することができる」(教会への証 3 巻 183)。

「わたしたちに準備する時間、すなわち、品性というわたしたちの衣を洗い、アイロンがけをし、キリストのみ前にしみもしわもそのたぐいのものがいっさいなく現れることができるための時間があることを感謝する」(ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1901 年 4 月 17 日)。アーメン

次回より、「4. このメッセージは黙示録 14 章の中でさらに明瞭に示されている」

（44 ページの続き）

きおり池を見るために目を上げていたとき、愛情あふれたお顔が彼をのぞき込み、彼は「なおりたいのか」という御声を聞きました。

その人は悲しそうに「主よ、水が動く時に、わたしを池の中に入れてくれる人がいません。わたしがはいりかけると、ほかの人が先に降りて行くのです」と答えました。

彼は自分のかたわらにいるお方が、ひとりだけでなく、みもとに来るすべての人をいやすことがおできなることを知りませんでした。キリストはこの人に「起きて、あなたの床を取り上げ、そして歩きなさい」と言われました。

すぐに彼は命令に従おうとしました。そうしたら、力が彼に戻ってきました。彼は飛びあがって自分の足で立ち、自分が立って、歩けるようになっているのがわかりました。なんという喜びでしょう！

彼は自分の床を取り上げ、急いで出ていき、一歩ごとに神さまをたたえました。まもなく彼は何人かのパリサイ人たちに出会い、彼らに自分のすばらしいいやしを語りました。彼らはうれしそうではなく、かえって安息日に自分の床を運ぶことを非難しました。この人は彼らに言いました「わたしをなおして下さったかたが、床を取り上げて歩けと、わたしに言われました」（ヨハネ 5:1 － 11）。

そこで彼らはもはや彼を不快に思わず、彼に安息日に自分の床を運ぶように言ったお方をせめました。

山芋のフライ

材料

山芋　　適量

塩　　少々

片栗粉　少々

作り方

1. 山芋を 10 センチ位の長さで太さ 1.5 センチくらいに切ります。
2. 塩と片栗粉をまぶします。
3. サラダ油であさく、焼き色がつくまで揚げます。

じゃがいものフライとはまた違った風味があります。お好みでソースをつけてどうぞ。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校：9:30-10:45（公開放送）

礼拝説教：11:00-12:00（公開放送）

午後の聖書研究：14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先：〒 350-1391　埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係

是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。

【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。

イエスの物語

第22話　安息日の遵守（III）

遵守=守り、従うこと

エルサレムにベテスダと呼ばれる大きな水の池がありました。ある時期になるとこの池の水が動きました。人々は主の使が送られて水を動かし、そして水が動かされた後に、最初に飛び込む人は、どんな病気を持っていてもいやされると信じていました。

大ぜいの人々がこの場所に来て、いやされることを望んでいました。しかしほとんどの人が失望させられました。水が動くときに、このようにたくさんの群衆がいたので、多く人々は池のふちにたどりつくことさえできませんでした。

ある安息日にイエスさまはベテスダに来られました。そこで苦しんでいるかわいそうな人々をごらんになって、このお方の心は同情に満たされました。

他の人よりももっと不幸に見えるひとりの人がいました。38年間も彼は無力な不具者だったのです。医者はだれも彼をいやすことができませんでした。何度も彼はベテスダに連れてこられました。しかし水が動くときは、ほかの人が彼より先に入っていくのでした。

この安息日に彼はもう一度、池に行こうとこころみました。しかしむだでした。イエスさまは彼が自分のベットであるマットにはいもどるのをごらんになりました。彼の力はほとんどつきていました。すぐに助けが来ない限り、彼は死んでしまうにちがいありません。

彼が横たわりながら、と

（41ページに続く）